

+1(プラスワン)



「マッ黒ソフトの彼方」

牧師 横山順一

木曜の夜にパソコンが壊れた。立ち上げようにも、うんともすんとも言わない。

翌金曜日、ほぼ一日素人なりに、考えうるあらゆる手立てを尽くしたが、無駄だった。日曜が目前に迫っていて、焦りばかり募った。そしてついに諦めた。

幸い、USBに次の日曜の週報や説教の情報を入れていた。なので、被害は最小限に収まるせめてもの安心感があった。

しかし、その次はない。土曜朝一で、最寄りの量販店に持ち込んだ。が、修理受付のみで、メーカーに送るといふ。最低でも一週間から十日はかかるとのこと。

時間以上に問題は、回復するため、これまでのデータが全部飛んでしまうということだった。

それはない。そのパソコンを買って七年間の、すべての記憶がそこにあるのだ。それが消えてしまふのは、ほとんど死刑宣告に近い。

説教原稿はもちろん、週報や委

員会記録など、属し働いて来たありとあらゆる文書が無くなってしまうたら地獄という他ない。

一から作り直す労力はかなり大変だが、できないものばかりではないけれど。ただ、二度とできないものも少なくなかった。そこで・・・。

結局、購入した伊丹の店舗に行くことにした。そこは専門の担当が常駐しているからだ。

あにいわんや、「餅は餅屋」のことわざ通り、ほとんど即座に「データ取り出し」OKの返答をいただいて、一安心した。安心どころか、生き返った。

けれどパソコン本体はアウトの宣告である。買い替えしか選択肢はなく、思い切ってCPUの能力の高いものを選んだので、大出費に終わった。

思えば、おおよそ一年前になる。Windows 7搭載のわがパソコンに、或る日次のWindows 10が無料で書き換えできるお誘いの情報が入ったのだ。

タダほど怖いものはないと言うが、抗えなかつた。簡単な手続きだけで最新のソフトに交換しても

らえるなら、拒否する理由などないから。

結果、調子良かったのは、ほんのしばらくで、あちこちに不具合が生じたのを、騙しながら使用して来た、そして突然壊れたのだ。

これはマイクロソフトの陰謀だったと推測する。タダなら、誰でも変えるに決まっている。それは修理してくれた店員の言葉を借りるなら、「軽自動車のエンジンに二千CCの車を乗つけるような」ものだった。ブラッック!

無理がかかるのは目に見えていた。実際壊れた。修理店は大繁盛。ただしデータ復旧のみで、本体は買い替えしかない。新品には当然Windows 10が搭載されている。壊れることを前提とした新たな販売戦略だったのか。

車やパソコンは金食い虫と言われて来た。本体のみならず、周辺の機器や維持管理に常に費用がかかるからだ。

やれやれ、いつになったら十年持つ製品が登場するのだ。それとも壊れるからステップアップするのか。物はともかく、人間はどうだろう?思うところ大。